

1学期を振り返ってのアンケートについて(報告)

1学期を振り返ってのアンケートに御協力ありがとうございました。下記のとおり、結果を報告します。アンケート結果を今後の教育活動に生かし「A:とてもあてはまる」と答える児童を増やすための手立てをうつことによって、子どもたちが健やかに成長し、主体的に行動できるように努めていきます。

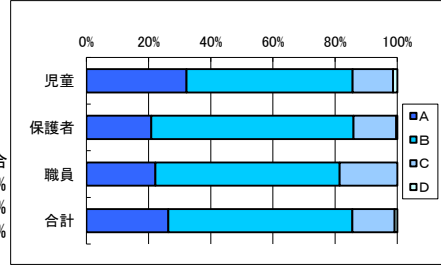
記

1学期を振り返ってのアンケート

1学期アンケート A:とてもあてはまる、B:すこしあてはまる、C:あまりあてはまらない、D:ほとんどあてはまらない

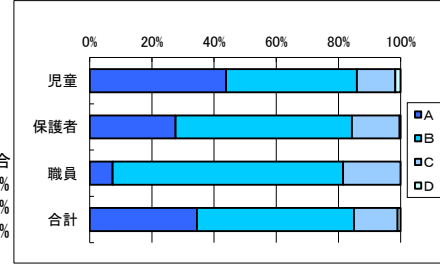
1 生活をよりよくすることや授業で追究したいことに気づく力がついていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



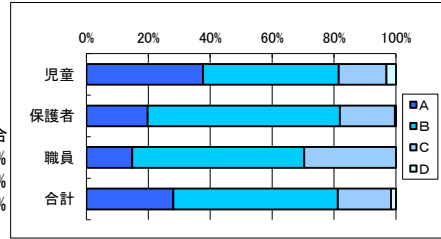
2 気づいたことについてどうしたらよいか考えていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



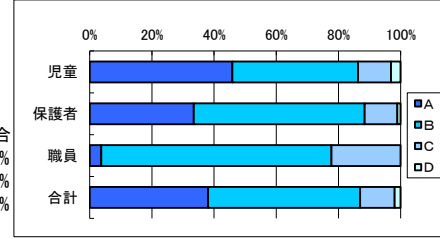
3 気づき考えたことを行動していますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



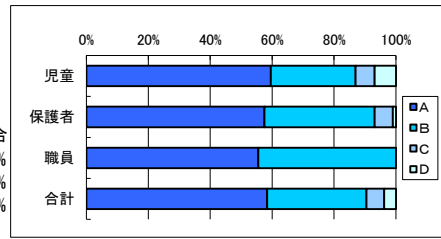
4 自分がされていやなことはしない、言わないができていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



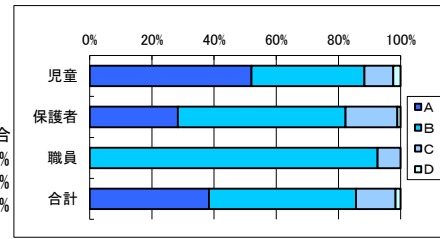
5 学校は楽しいですか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



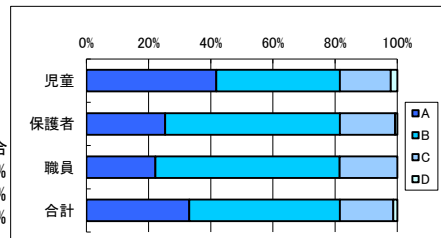
6 授業はわかっていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



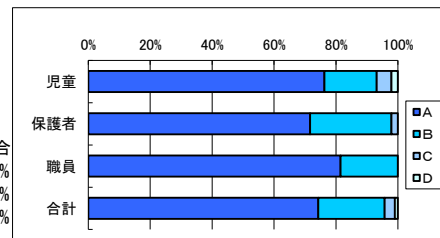
7 授業に主体的に取り組んでいますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



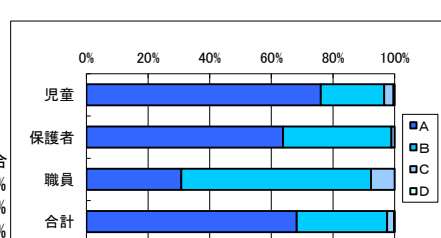
8 みんなで何かをするのは楽しいですか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



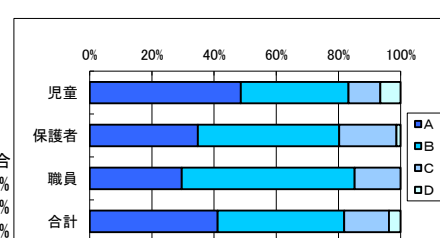
9 自分や友達を大切にしていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



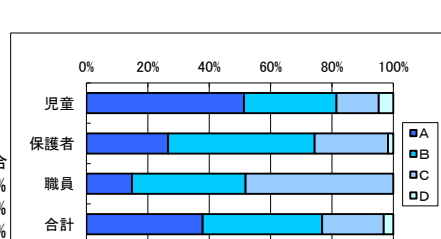
10 学校で、すすんであいさつをしていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



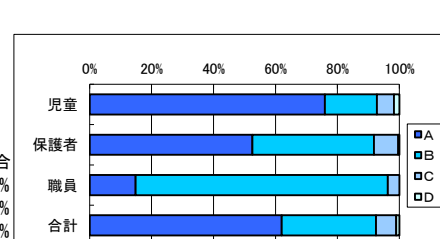
11 家や地域で、すすんであいさつをしていますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



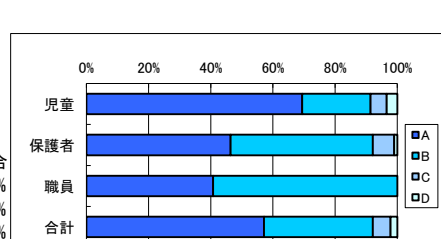
12 学校に信頼できる(相談できる)友達がいいますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



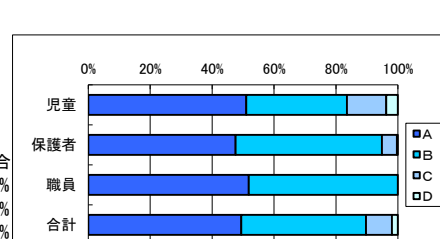
13 学校に信頼できる(相談できる)先生がいいますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



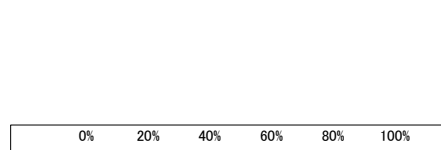
14 白羽小学校の授業や行事などの学校生活に満足していますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 児童, 保護者, 職員, 合計.



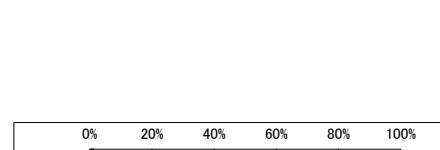
15 スクラムファイブ宣言を御家庭で積極的に取り組んでいますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 保護者.



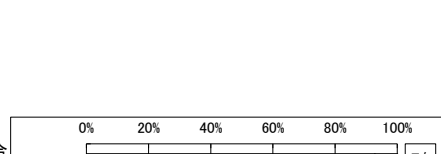
16 スクラムカレンダーを活用していますか。

Table with 5 columns: A, B, C, D, Aの割合. Rows: 保護者.



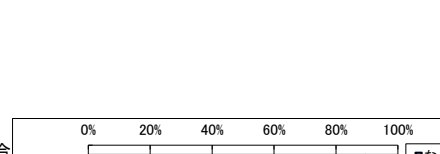
17 お子さんの様子を見ていじめを心配されることがありましたか。

Table with 2 columns: ない, ある, Aの割合. Rows: 保護者.



18 白小の子どもで、いじめにつながるような気にかかるとはありましたか。

Table with 2 columns: ない, ある, Aの割合. Rows: 保護者.



アンケート結果の考察(番号はアンケート項目番号)		
番号	結果から読み取れること	今後取り組んでいくこと
1 2 3	<b>「気づく力」「考える力」「行動する力」</b> ・「考える力」「行動する力」を「とてもあてはまる」と答えている児童が、昨年度より3.6%、6.1%増えている。学校重点目標「気づき考え行動する子」が浸透し、生活科・総合的な学習を核にした授業、行事などで、主体性が少しずつ育まれてきているのではないかと。 ・主体的に行動するためにまず必要な「気づく力」をつけたい。	<b>「自分事」「児童の思いを大切に」「価値づけ」</b> ・授業や生活、行事などに自分事として取り組めるような意識づけや場の設定をする。 ・生活科や総合的な学習の時間を核に、児童の思いや疑問を大切に、子どもと教師でついたり、解決したりする授業を行い、達成感や充実感を味わわせる。 ・教職員や保護者が、宝探しの目で児童の主体的な行動を見つけ、具体的に価値づけ(「〇〇によく気づいたね。」「よく考えて進んで行動したね。」など)自己有用感を高め、次の行動へのエネルギーとする。また、広めたい主体的な行動を浜の子賞(特別賞)で賞揚していく。
5 12 13 14	<b>「学校は楽しい」「信頼できる友達・先生」「学校生活に満足」</b> ・「学校は楽しい」「学校生活に満足」を「とてもあてはまる」と答えている児童・保護者・教員が5~6割いる。「とてもあてはまる」と答えている保護者が、それぞれ5.5%、9.6%と増えていることから、児童の進歩やがんばりなどが、保護者に伝わっていると考えられる。しかし、児童は昨年度に比べて割合が増えていないことから、授業や行事をよりよくしたいと願う子や、友達との人間関係で不安を感じている子がいるのかもしれない。 ・「信頼できる友達・先生がいる」と「とてもあてはまる」と答えている児童や保護者が、昨年度より増えている。さらに増やしていきたい。	<b>「生活科・総合の充実」「子どもと向き合う」</b> ・未来を生きていく子どもたちには、未知なる問題を解決していく力、自分とは違う考え方の仲間と関わる力などが、今、求められている。生活科や総合的な学習の時間を核に授業を充実させ、自分たちで問題を解決する喜び、仲間と力を合わせてつくりあげる楽しさを味わわせていく。 ・「子どもと向き合う」ことを大切に、一人一人の子どもたちをよく見て、個別に支援したり、声掛けをしていく。特に、不安を抱えている子や、トラブルなどを早期発見し、早期対応をしていく。 ・「信頼できる友達・先生がいる」と感じる子を増やすことで、「学校は楽しい」「学校生活に満足」を「とてもあてはまる」と答える児童や保護者を、増やしていく。
4	<b>「子ども・保護者・教員の意識の差」</b> ・「いやなことをしない、言わない」について、児童や保護者は30%~45%がA評価とし、教師は3%がA評価としていて、意識に大きな隔たりがある。教師は、いやなことをしたり言ったりする子どもの姿を目にし、指導する機会があるため、A評価が少なくなっていると考えられる。	<b>「自分事として、具体的に」</b> ・道徳や学級活動、朝や帰りの指導の場などで、どんな場面で、どんな嫌な言葉や嫌な行動があるのか具体的に考えさせる。そして、「こんな時はこうする」という具体的なソーシャルスキルを教え、実践する。
6 7	<b>「授業がわかる」「主体的」</b> ・授業がわかると答えた児童が52.1%であり、昨年度と比較すると-2.8%である。目標の65%までもまだ差がある。 ・主体的に取り組んでいると答えた児童が41.8%であり、昨年度と比較して1.1%増えている。しかし、保護者や教員の評価はやや減少している。	<b>「分かったと実感できる授業」→「主体的な子ども」</b> ・児童が「分かった」と実感できるような授業づくりが必要であると考える。そのために、教師は教材研究をし、(1)解決したい課題や問いの設定(2)考えるための材料の準備(3)対話、思考場面の設定(4)学習の成果を実感できる振り返りの時間を授業の中に組み込み、実践する。
8 9	<b>「みんなで活動」「自分や友達を大切に」</b> ・1学期は行事も多く、みんなで活動することを楽しさを感じている児童が76.3%。昨年度と比較しても、全体的に上がっているが、児童だけは、29年度と比べて少し下がっている。 ・自分や友達を大切にしている項目については、児童、保護者、職員ともに昨年度よりも上昇している。76%の児童がA評価を付けている。保護者は63%。職員が30.8%と低い。A評価になるよう、さらに力を入れて指導を継続していくことが求められる。	<b>「浜の子グループ活動」「浜の子グループ清掃」「学級・学年活動の充実」</b> ・2学期よりスタートする浜の子グループ清掃をしっかりと指導し、機能させていくことがポイントだと考える。浜の子グループ活動では、1学期のように、運動会や遠足などの行事がないので、活動の内容や充実を図らないとマンネリ化してしまうことが予想される。高学年が中心となって内容の深化を図りたい。 ・学級・学年づくりも2学期が中心となる時期なので、自分たちで生活をより良くしていくための学級活動の工夫、指導を計画的に進めていくことが重要だと考える。
10 11	<b>「すすんであいさつ」「家庭や地域であいさつ」</b> ・すすんであいさつをしている項目では、児童のA評価は48.6%と50%を切っている。職員のA評価は29.6%とまだまだ低さがあるが、全体的に昨年度よりは上昇している。 ・地域や家ででのあいさつは、児童が51.4%と半数近くがA評価なのに対し、保護者は26.6%、職員は14.8%で、児童との温度差がある。こちらも、昨年度よりは上昇しているが、自信をもってA評価を付けることができるよう、価値付けと指導を行っていくことが求められる。	<b>「あさしおごはん委員会」「代表委員会」「かがやきカード」</b> ・1学期にあさしおごはん委員会が行った活動や代表委員会で決まった活動で、あさしおごはんを意識して活動できた。イベントごとの時はがんばるが、終わると意識が低下してくるのが定番化してきているので、委員会活動を中心に継続的にあいさつ活動に取り組んでいくことが大事だと考えている。また、かがやきカードを活用して、目指すあいさつ像(あいさつの目標)を達成した児童を価値付け、広めていくことも行っていく。
15 16	<b>「あさしおごはん」「早寝 早起き 朝ご飯」「〇〇の日」</b> ・スクラム5宣言を積極的に取り入れているAB評価は、学年が上がるにつれて、やや下がっていく傾向がある。全体では、昨年度より0.6%減少している。 ・スクラムカレンダーを活用しているA評価が、18.6%も伸びた。1年生保護者のA59%が最高。カレンダーを家庭のどこかに張っている家庭が増えたのだろう。また、作ってくださっている方たちの創意工夫が魅力を生んでいる。	<b>「マンネリ」「工夫」「継続」「話し合う場」「〇〇の日→家族ふれあいの日」</b> ・スクラム5宣言がマンネリ化しないよう、お題目に終わらないよう、保護者が話し合う場が必要。PTA運営委員会で話題にする。学級懇談会でも、何か1つでも話題にしてほしい。例「あさしおごはんのどれを大事にしていますか?」 ・「〇〇の日」は、新PTA会員や転入生保護者には、伝わりにくい。そこで「家族ふれあいの日」とする。ありふれたネーミングだが、願いが伝わるのが一番大事。
17 18	<b>「意識していじめについて考える」</b> ・自分の子や白小の子について、いじめを心配している保護者の割合は1割程度しかないが、人数にすると、それぞれ20人~30人近くいる。保護者の心配を、いじめが起ころうとと考えると捉え、今後も早い対応をチームで行うために生かしていく。	<b>「未然防止と、すぐ相談」</b> ・いじめ未然防止の観点の観点から、次のような取り組みを引き続き行っていく。(定期的なアンケートの実施・日常的な教師のかかわりと見取り・あたたかい雰囲気のある学級づくり) ・「いじめではないか?」と気になることが有るときには、学校も保護者もお互いに相談し合い、早い対応を行っていく。

よさを見つけてよう 宝さがしの目で かけよう 大人から子どもへの勇気づけのボイスシャワー



**気づき 考え 行動する子**  
「自分から みんなで」

白羽小 検索

→ ホームページでも公開しています。